

GHG 排出量見える化ツールの提供開始について

2021 年 9 月 21 日
関西電力株式会社

当社グループは、ゼロカーボンビジョン2050に掲げるデマンドサイドのゼロカーボン化に向け最適なソリューションを提案・提供していくこととしています。

当社はこの度、グループ会社である K4Digital 株式会社と共同で、法人のお客さまに無料でご使用いただける「GHG 排出量見える化ツール」※（以降、本ツールという）を制作し、提供を開始しました。

本ツールは、CDP・RE100・SBT 等でも使用され、国際的に認められている GHG 排出量算定の基準である GHG プロトコルをベースに制作しており、エネルギー使用量等を入力することで、GHG 排出量が算定・グラフ表示され、GHG 排出量の見える化が可能となるものです。

「GHG プロトコルにおける自社の GHG 排出量を算定したい」「サプライチェーン全体を意識した GHG 排出量削減を検討したい」といったお客さまのご要望に対し、本ツールを起点に、コンサルティングや最適なソリューション提供を実施いたします。

また、本ツールについては、お客さまからのご意見や GHG を取り巻くルール変更や制度動向等をもとに必要に応じてバージョンアップを行うことで、機能の拡充を行ってまいります。

本取り組みを通じ、多様なゼロカーボンソリューションを展開することで、2050年のゼロカーボン社会の実現に貢献してまいります。

※：GHG は Greenhouse Gas(温室効果ガス)の略

以上

添付資料

GHG 排出量見える化ツールの概要

GHG 排出量見える化ツールの詳細およびダウンロードは当社 HP より
<https://sol.kepco.jp/decarbonization/>

GHG排出量見える化ツール～GHGプロトコル対応～

SCOPE 1～3をカバー！
サプライチェーンのGHG排出量を把握できる！

サプライチェーンの排出量 =



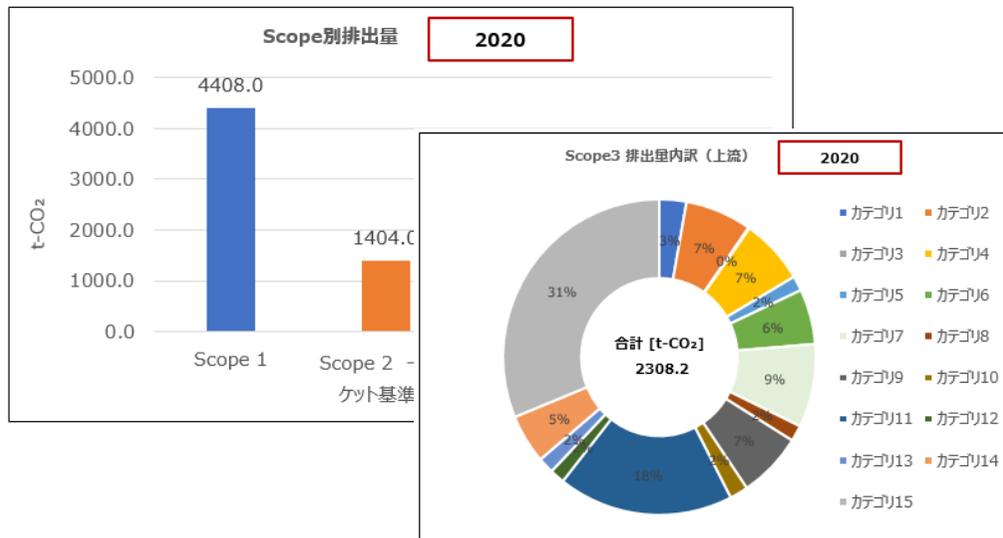
データ入力に便利な解説付き！
初めて算定される方も安心！

Scope1 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出
 【概要(温対法報告対象の特定事業所排出量をベースに記載)】
 ○国内および海外において自社
 ○算定対象の大部分は温対法
 ⇒「自社所有の輸送手段の

Scope2 他社から供給された電気の使用に伴う間接排出—電気使用量—
 【概要】
 ○国内および海外において自社が
 ○算定対象の大部分は温対法の
 ⇒なお、「電力を使用する建設
 による排出等」については、注
 ○排出量の算定は以下8種類
 ・エネルギー起源二酸化炭素
 ・非エネルギー起源二酸化炭素
 ・メタン(CH4)
 ・一酸化二窒素(N2O)
 ・ハイドロフルオロカーボン類
 ・パーフルオロカーボン類(PFC)

Scope3 カテゴリ1 購入した製品・サービス
 【概要】
 ○自社が購入・取得した全ての製品（原材料・部品、仕入れ商品や販売に係る資材等）及びサービスとして、以下のものも含め、自社へ投入される原材料・部品、商品、サービス等の除外ことも可能です。カテゴリ分類、該当項目に関する整理は以下の通りです。
 ・資源採取段階から一次サプライヤーまでの輸送についてもカテゴリ1に含まれます。
 ・一次サプライヤーから自社までの輸送はカテゴリ4にて算定します。
 ・購入した燃料・エネルギーの採取・製造等に係る排出量はカテゴリ3にて算定します。
 ・カテゴリ2～8に含まれるものは算定対象外となります。
 ・直接調達（事業者の製品の製造に直接関係する物品等）だけでなく、間接調達（事業者の排出量の算定は以下のいずれかの方法により算定ください。（②のほうが高精度となることが期待）
 ①自社が購入・取得した製品またはサービスに係る資源採取段階から製造段階までの排出量を算定
 ●算定方法はCO2 排出量 = Σ（（サプライヤーごとの排出量×）） ※購入・取得し
 ②自社が購入・取得した製品またはサービスの物量・金額データに、製品またはサービスごとの資源採取段階からのCO2 排出量（t-CO2/物量）を乗じて算定

GHG排出量が見えるグラフ化機能！
社内報告にも使える！



過去のGHG排出量との比較機能！
削減効果が見える！

